



外国出張報告書

平成 26 年 3 月 31 日

1. 出張国名 ガーナ、モザンビーク

2. 出張月 平成 26 年 1 月～3 月

3. 出張目的

1) 中小規模ため池の水管理組織等に関する現地調査：A

2) モザンビーク・ナカラ回廊における商品作物の収益性および家族労働投入量調査：A

4. 成果の概要

1) 村落概況調査により、実証調査候補地域に存在する水資源とその用途を把握したため池の位置付けを確認するとともにため池を利用した灌漑稲作が想定される土地の保有・利用概況を把握した。

また、組織的な水管理を導入する上で重要となる現地の農民組織の活動状況や設立経緯を概況把握した。続いて、稲作農家調査により、ため池の利用者として想定される流域内の稲作農家の属性や営農体系などを明らかにした。

また、農家経営における稲作の収量改善や、稲作の収量改善における水管理の必要性認識について確認するとともに、コメの収量安定化、補給灌漑、2 期作化、貯水利用、水利用競合時の対応などに関する農家の意向を把握した。

関連して、畦畔の設置有無と理由を把握した。

最後に、これらの調査結果を踏まえ、農家が貯水を稲作に利用する可能性や利用上の課題を検討した。

2) ナカラ回廊東部（ナンブラ州ラパレ郡）、西部（ニアサ州シンプニラ郡）、中部（ザンベジア州グルエ郡）の農家試験対象村において、試験参加農家の収益・労働時間データの収集のために前回出張時（2013 年 12 月）に配布した記帳簿の中間点検を行い、記帳に際して彼らが困難を覚える項目を特定するとともに、誤記入のあった項目を確認・訂正した。そして、農家組合の幹部が自ら他の試験参加農家の記帳簿を点検・訂正する場を設け、彼らだけで今後記帳を確認・修正できるように指導した。

また、意思決定支援モデルの作成上重要となる正確な圃場面積の把握に向け、GPS による測定方法の指導・デモンストレーションを行った。